

フルーツトマト栽培から始まる農福連携

田園資源 × 福祉

・株式会社 ベジ・アビオ

・デイアクティビティセンターはろはろ

<取り組みの概要>

- ◆週2回2時間、障がい者3~5名+支援員1名体制で、トマト苗が成長する過程で生じる不要な脇芽を摘み取る作業（芽かき作業）や、収穫したトマトの商品パッケージへのシール貼りを実施。
- ◆繁忙期には、パッキング作業にも障がい者が参加。

<取り組みの効果>

- ◆作業方法を覚えてもらうまでは心配もあったが、障がい者の方も日に日に早く正確に作業がこなせるようになっていき、仕事ぶりも真面目で、今では安心して任せられる立派な戦力になっている。
- ◆(株)ベジ・アビオでは、はろはろと始めた農福連携の取り組みを軸に、2019年からは特別支援学校のインターシップの受入、2020年には障がい者のトライアル雇用受入も開始した。トライアル雇用者については、労働時間を調整しながら現在も雇用継続中。

< 株式会社 ベジ・アビオ >

- ◆概要：
新潟市北区を活動拠点とする農地所有適格法人。ICTを活用した栽培施設を建設し、高糖度トマト（品種：フルティカトマト）の安定供給を行っています。新潟県の農業活性化と若者の人材育成に寄与することを事業理念に掲げ、活動しています。

- ◆ホームページ：
<https://vegeabio.co.jp>



< デイアクティビティセンターはろはろ > (就労継続支援B型)

- ◆概要：
封入作業や清掃、洗濯作業、食品製造などを行い、障がい者に働く場の提供と工賃を支給しています。また、ご利用者の希望をお聞きしながら就職へのサポートも行っています。

- ◆ホームページ：<http://www.atago.or.jp/halohalo/>



<取り組みに至った経緯>

- ◆障がい者雇用については、農業を始めるに当たって、労働力として無視できないと考えていた。農福連携についてはハードルが高いという認識があったが、その中で愛宕福祉会（デイアクティビティセンターはろはろの経営主体）と話をすることがあり、トライアル的に障がい者を受け入れてみようということで合意が図れ、以後、継続して実施している。

<取り組む際に生じた課題と対応方法>

- ◆作業工程を細分化し、障がい者の方がやりやすい作業とそうでない作業を分けることから始めた。工程を明示したマニュアルを作成するなど、お互い安心して仕事ができる環境整備に努めた。明確なマニュアルが作りにくい芽かき作業は、ある程度長い目で見て慣れてもらうよう対応している。（株）ベジ・アビオ

<今後の展望>

- ◆農福連携はお互いにWIN-WINの関係が作れないと浸透させるのは難しい。障がい者を1人の労働力として見るために、より良い仕事の提供方法等についても勉強を続けていきたい。（株）ベジ・アビオ
- ◆農業の分野で活躍できるご利用者は多いと思う。的確に情報収集をし、双方をつなぐ支援ができる職員育成に取り組んでいきたい。（デイアクティビティセンターはろはろ）

<活用した支援施策>

- ◆新潟市障がい者あぐりサポートセンター事業実施要綱で規定の『施設外就農促進事業』の謝礼金を活用（株）ベジ・アビオ